



状況に応じた**対応**を考えよう



大雨が発生した場合

甲賀市から発表される避難情報（避難準備情報、避難勧告、避難指示）に従い行動しましょう。
また、雨の降り方や周辺の状況から**“あぶない”**と感じたら、**自分から進んで早めに避難をしましょう。**

警戒レベル 1	警戒レベル 2	警戒レベル 3	警戒レベル 4	警戒レベル 5
災害への心構えを高める	ハザードマップ等で避難行動を確認	高齢者等は速やかに避難 避難準備・高齢者等避難開始	速やかに避難 避難指示(緊急) 避難勧告	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる 災害発生情報



大きな地震が発生した場合

揺れがおさまったら、ため池のすぐ下流にお住いの方や作業中の方は、高台やため池から離れた場所へ避難しましょう。外への避難が困難な場合は、家の2階のため池とは反対側の部屋へ移動しましょう。

自宅に留まることも選択肢の一つ

浸水の中を避難することはとても危険です。浸水がすでに始まっている場合や、自宅がため池から離れており浸水被害が小さいと予想される場合は自宅に留まり、2階へ避難するというのも選択肢の一つです。

家屋の浸水を軽減する方法

『ゴミ袋による簡易水のう』

40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。



避難をする時に注意すること

◆ため池決壊以外の災害も意識する

ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で右図のような災害も発生している可能性があることに注意して避難しましょう。

「地震のあと」に想定される災害

大雨

建物倒壊 火災 液状化 ため池はん濫 土砂災害 内水はん濫 河川はん濫 (水腫など氾濫)

地震

「大雨のとき」に想定される災害

◆危険な場所は避ける

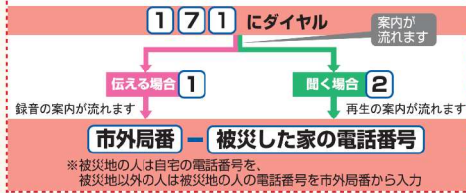
できるだけ狭い道や塀ぎわ、川や水路の近くなどは避け、安全な広い道を選んで避難しましょう。

◆浸水し始めたら無理をしない

歩ける水深の目安はひざくらいまでです。水深が浅くても流れが速くなると大変危険なので、無理をしないようにしましょう。

災害用伝言ダイヤル 171

大規模な災害が発生したときの「声の伝言板」です。安否確認にご利用ください。



甲賀市 ため池ハザードマップ

峠池 版

このマップでは、峠池が決壊して、全ての貯水量が流出する状況を想定しています。

避難経路図

ご自身が避難する際の経路を記入してください。

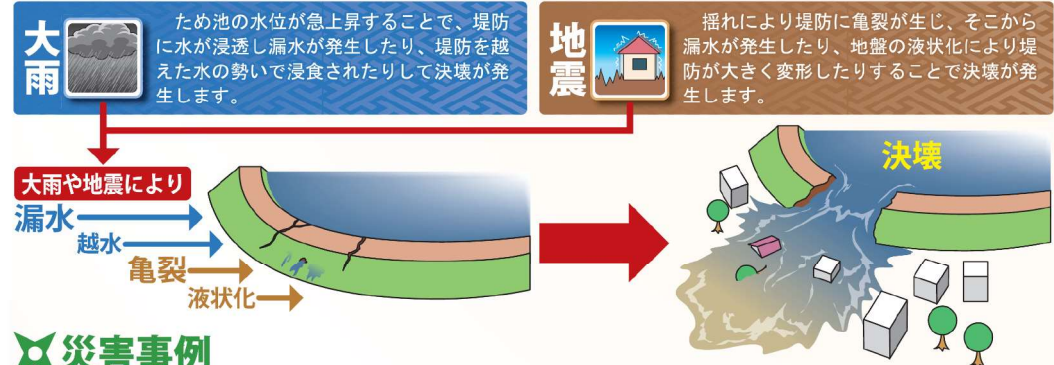
わが家の防災メモ

いざという時あわてないために、家族の連絡先を記入し、緊急時の集合場所、避難場所を決めておきましょう。

名前	生年月日	血液型	連絡先

ため池決壊について知ろう

ため池決壊の原因と起こり方



災害事例

大雨

平成 30 年 西日本豪雨 (平成 30 年 7 月 7 日)

大雨により広島県福山市でため池が決壊しました。グラウンドなどが崩れて、下方の農業用ため池 2ヶ所が崩壊し、3歳女児が土砂に巻き込まれて亡くなるなど、沢の下流側に甚大な被害が生じました。

地震

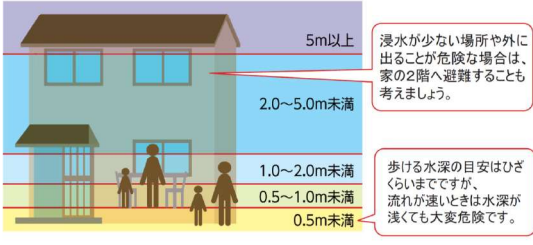
東北地方太平洋沖地震 (平成 23 年 3 月 11 日)

震度 6 弱の揺れで、山の上にある藤沼湖が決壊し、死者・行方不明者 8 名を出す被害となりました。

- 地震発生から 20~30 分後に決壊。
- 田植え前で満水状態であった貯水が全て流出。
- 下流の集落に土石流となって押し寄せた。



浸水時の最大浸水深〔色の区分〕



- 家屋が地震に対して安全であれば、屋内の高い場所に避難する
- 組ごとに避難場所を決めておく
- 高齢者への声掛けや手助けなど、近隣住民で助け合って支援する

避難所

- 指定緊急避難場所
災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、その危険から逃れるために一時的に避難する場所
- 指定避難所（第一次開設）
（第二次開設）
災害により家に居られなくなった市民等が滞在する（避難生活を送る）ための施設
- 指定緊急避難場所 兼 指定避難所（第一次開設）
（第二次開設）
災害により家に居られなくなった市民等が滞在する（避難生活を送る）ための施設

浸水到達時間

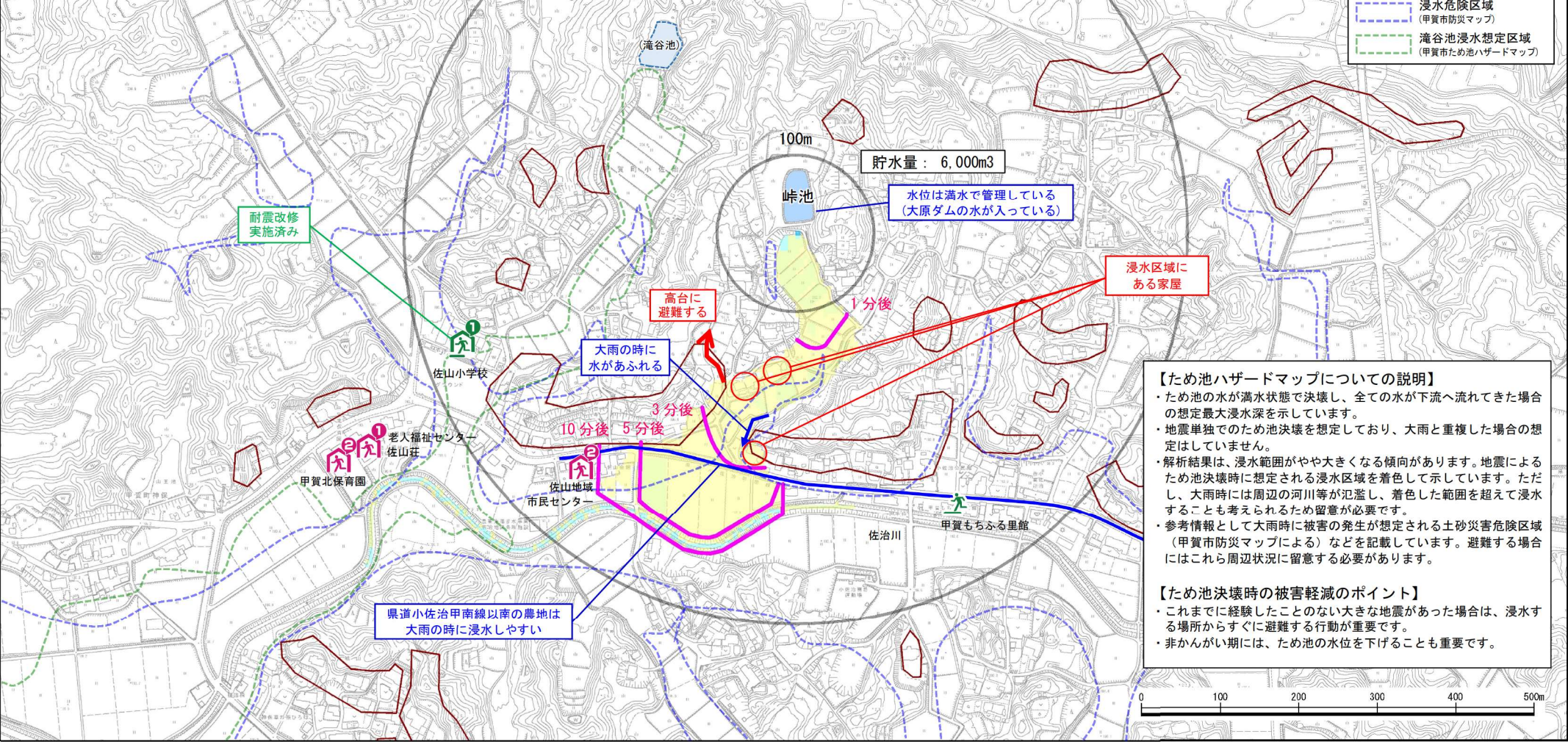
ため池が決壊してから水が到達するまでの時間（地震が発生してからではありません）

土砂災害危険区域

- 急傾斜地の崩壊
- 土石流（参考）

浸水想定区域

- 浸水危険区域（甲賀市防災マップ）
- 滝谷池浸水想定区域（甲賀市ため池ハザードマップ）



【ため池ハザードマップについての説明】

- ため池の水が満水状態で決壊し、全ての水が下流へ流れてきた場合の想定最大浸水深を示しています。
- 地震単独でのため池決壊を想定しており、大雨と重複した場合の想定はしていません。
- 解析結果は、浸水範囲がやや大きくなる傾向があります。地震によるため池決壊時に想定される浸水区域を着色して示しています。ただし、大雨時には周辺の河川等が氾濫し、着色した範囲を超えて浸水することも考えられるため留意が必要です。
- 参考情報として大雨時に被害の発生が想定される土砂災害危険区域（甲賀市防災マップによる）などを記載しています。避難する場合にはこれら周辺状況に留意する必要があります。

【ため池決壊時の被害軽減のポイント】

- これまでに経験したことのない大きな地震があった場合は、浸水する場所からすぐに避難する行動が重要です。
- 非かんがい期には、ため池の水位を下げることも重要です。

